

外部評価を踏まえた対応方針一覧

事務事業名		老人クラブ活動支援	包括的支援事業	農畜産物のブランド化	中心市街地活性化事業
担当課名		高齢介護課	高齢介護課	とわだ産品販売戦略課	商工労政課
内部評価	事務事業の方向性	現状のまま継続	効率性を改善して継続	さらに重点化を図る	有効性を改善して継続
	方向性の理由	老人クラブの活動は、高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って暮らしていくための社会参加の促進と、介護予防による、健康寿命の延伸のためにもとても重要な活動であると考えているため、今後も継続して支援していくことが必要である。	地域の高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるように、初期段階での相談対応及び継続的・専門的な相談支援で終わることなく、高齢者の実態把握をし、地域のネットワーク構築をしながら相談対応の向上を図り、地域包括ケア体制を実現していく。	十和田産品の高付加価値化を図るため、ブランド力の定着・向上に向けた取組みをさらに強化するとともに、主要4品目のみならず、その加工品をも含めた十和田産品ブランドとして認知されるよう努める。	今後進展する少子高齢化や人口減少等に対応した、コンパクトで賑わいのある街づくりを進めていくためにも、中心市街地の活性化を図っていく。
	今後の具体的な取組方策と狙う効果	新規会員加入促進のため、老人クラブ連合会事務局や単位老人クラブとも高齢介護課が連携・協議し、魅力ある老人クラブの活動にむけて検討・周知していくことが必要である。	国で示す、日常生活圏域（地域住民にとって身近に相談できるエリア）ごとの地域包括ケア体制の構築を目指し、総合相談支援業務を評価することで、実施主体となる包括支援センターの在り方について検討していく。	十和田産品販売促進ツールを積極的に活用して、十和田産品ブランドとして認知度を醸成していく。また、引き続き日本野菜ソムリエ協会との連携により十和田産品のブランド力を強化させ地域経済の活性化を図る。	コンパクトで賑わいのある街づくりを進めていくために、国、県、関係課、及び事業者と調整を行いながら中心市街地活性化基本計画事業を確実に実施していく。また、目標指標の一つでもある居住人口の目標達成のため、家賃補助事業などについて広くPRをしていく。さらに、本年度は計画期間の最終年であることから、その評価検証及び来年度以降の中心市街地活性化の方向性を探る事務を行う。
外部評価	ご意見及び指摘事項	<p>【評価結果】</p> <p>現状のまま継続 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会を考えると、現状のままの活動でよいと思う。 <p>有効性を改善して継続 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア資源の有効活用の方策を探って、成果向上を目指す。 <p>効率性を改善して継続 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一律支援を維持しつつ、評価に基づく支援を強化する。 <p>事務事業の統廃合を図る 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本中で高齢化が進んでいるので、事業の内容を考えたいと思う。 <p>【その他ご意見・ご指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の60歳は若者に負けない気持ちがあり、60歳からの加入は厳しいと思う。活動の単位を年代ごとに区分けするなど、考え方の再構築が必要ではないか。 ・普段の自主的な活動（美化活動や親睦会など）のほか、町内会や他団体と連携した事業を実施できるよう期待する。 ・年代ごとで活動することも必要ではないか。考え、体力等近いほうが、活動がスムーズにいくと思う。 	<p>【評価結果】</p> <p>有効性を改善して継続 2人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援体制の強化による成果向上を望む。 ・高齢者が増えることによる相談場所の増設と体制を考えながらの事業推進をお願いしたい。 <p>効率性を改善して継続 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減と効率性・公平性の向上のため、民間移譲による支援体制の早急な構築を求める。 <p>事務事業の統廃合を図る 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後ますます相談件数が増えると思う。現在、旧十和田湖畔に事務局があるとのことだが、時間を大切に相談者にも負担をかけないようにすることも大切だと思う。 <p>【その他ご意見・ご指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市全体として7か所で開催されているが、全市的に網羅されているかは疑問。今後ますます一人暮らしや高齢者世帯、認知症が増えていくと予想されることから、民間での事業拡大など積極的な取組みと体制づくりが急務である。 ・多忙な業務であることは説明を受けて理解できたが、その多忙さを知ってもらうための資料提供が下手である。データ分析を行い、そこから読み解ける問題を提示することが必要である。 	<p>【評価結果】</p> <p>さらに重点化を図る 3人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十和田市農畜産物は、たいへん良いものがあるので、これまで以上にブランド化に向けていってほしい。ソムリエ協会・北里大学・三農との連携も図っていただきたいと思う。 ・農業は十和田の基幹産業であることには変わりなく、今後の農家の目標である若い人の流入を増やすためにも取組みを進めるべき。 ・ブランド化は長期間の継続が必要である。さらに市が他機関、団体等と連携を密にし、市の重点課題として取り組んでいくべきである。 <p>有効性を改善して継続 3人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に新しい事業の方法等を考えながら、ブランド化を推進していくことが重要と思う。 ・生産者、JA等ブランド化推進事業者とのさらなる連携を期待したい。 ・三農及び北里大学と連携し、有効性を高める。 <p>【その他ご意見・ご指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化は大変な事業なので、市としてどこまでやるかのビジョンがしっかりしていないと、生産者に不安を持たせ続けることになる。 ・県内外の食品加工業者と連携し、主要4品目に付加価値を付けた加工品の開発も必要ではないか。 ・農業者の売り上げの増に繋がるように指導をしていく機関があれば、生産者の励みにもなるので、その辺の指導と一緒に出来るような工夫づくりもお願いしたいと思う。 ・事業者が数軒でまとまり、ミネラル野菜オーナーとして県内外から募集をして、種まきから収穫までの農業体験や野菜ソムリエの料理教室などの現地イベントを開くことで、受益の安定へつながると思う。 	<p>【評価結果】</p> <p>さらに重点化を図る 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何とかハード事業を見つけながら、中心市街地の活性化に向けた取組みをお願いしたいと思う。関係機関との連携も、大いにしていきたいと思う。 <p>有効性を改善して継続 5人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に前進あるのみの事業であり、有効性を点検評価し、継続する。 ・近隣市町村イベントをPRし、十和田市を知っていただき、情報発信をしよう。 ・中心商店街への効果を目途に、居住人口増加策を考えてほしい。 ・行事のみでなく、日常生活に密着しての市街地の活用を見出し、活性化につなげてほしい。 ・中心市街地の活性化は簡単にできるものではなく、市及び商店街との密接な連携が必要と思われる。市としての大胆な計画づくりと、にぎわいを取り戻せるような商店街づくりを期待したい。 <p>【その他ご意見・ご指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地居住への支援は、若い世帯にはありがたいが、公平性（市民周知の充実度）・透明性（支援効果の測定）という観点からは、難しい判定となる一面もあろう。 ・昼間人口の増加、という方針での事業展開も重要だと思われる。 ・十和田市は風水害がなく食べ物には不自由がなくとても住みやすい土地なので、その良さを大いにPRしていったらどうか。私たちも他県出張の際、お話をする機会があればそのことを宣伝している。
		事務事業の方向性	有効性を改善して継続	有効性を改善して継続	さらに重点化を図る
外部評価を踏まえた対応方針	取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人クラブによる地域貢献活動を進めるために、老人クラブの活動と町内会活動が連携できるよう支援していく。 2. 会員による住民への声かけや見守りなどの活動を推進するために、全国的な活動例を連合会に提案し、会員の地域貢献活動に対する意識の向上を図っていく。 3. 活動の活発化を図るために、各年代に適した活動の構築に向け、現状の課題と対応策を検討していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅介護支援センターと地域包括支援センターの役割分担を明確にし、相談者へ速やかに対応・支援する。 2. 虐待等の困難事例に対して関係者間で連携した対応をするために、地域ケア会議を開催を拡大するなどネットワーク体制を構築する。 3. 支援状況や結果を数値化し、検証する。また、検証を基に課題を洗い出し、対策を講ずる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産・学・官により構成される「十和田産品販売促進会議」の活用や市内関係機関等との連携、日本野菜ソムリエ協会と連携した取組をさらに強化するとともに、主要4野菜はもとより奥入瀬ガーリックポークや十和田湖和牛、十和田湖ひめますのブランド力の向上を図り販売促進を実現する。 2. 首都圏の著名レストランでの食材利用拡大など「食」と「農」を結びつけた事業展開や、メディアを活用した情報発信等により、十和田産品の認知度を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中心市街地活性化基本計画の計画期間は平成27年3月で終了となるが、今後も、コンパクトなまちづくりに向けて、本計画の評価検証を踏まえ、中心市街地に集積している現代アート・文化施設や、公共施設等を有効に活用し、交流人口や居住人口が増えるよう誘導することによる、中心市街地の活性化を図る必要がある。 2. このため、官民一体となった、魅力ある商店街づくりに向けた取り組みや、新たな事業の掘り起こしなどを推進していくこととする。